

誌上対談

アスリート支援で得られるもの

企業と選手のWin-Winな関係を考える

志岐 隆史 (経済同友会 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 副委員長 (全日本空輸 取締役副社長執行役員)) × **荒木田 裕子** (日本オリンピック委員会 (JOC) 理事)

アスナビを契機に企業のアスリート採用が注目されている。その意味と意義について、志岐隆史経済同友会東京オリンピック・パラリンピック2020委員会副委員長と、オリンピックで日本オリンピック委員会 (JOC) 理事の荒木田裕子氏に語ってもらった。誌上対談の形でお届けする。

——まずは平昌オリンピックについての感想を。

志岐 当社所属のアイスホッケーの床亜矢可選手、スケート・ショートトラックの菊池悠希選手の応援をするため、私も平昌に行きました。町全体がグローバルな雰囲気なのが印象的でしたね。いろいろな国の方が町中を歩いていて、もちろん会場に行けば各国の応援団がいます。開会式は屋根がなく寒かったですが、盛り上がりはすごかったです。

荒木田 以前、オリンピックに出場する選手が「楽しみたい」と発言して一部で批判されたことがあります。ですが今回、その本当の意味を分かっていた気がします。



平昌で応援する全日本空輸「HELLO 2020」のメンバー。期間中、交代で現地に入った (右写真中央は志岐氏) = 同社提供



選手が「楽しむ」という意味は、逆境を乗り越えてありとあらゆる準備をし、早く試合がしたくてワクワクしている、ということです。そこまで突き詰めたアスリートのコメン

トには重みがありました。今回のオリンピックでは、そういう部分をメディアもフィーチャーし、見る人の理解が深まったと感じられてうれしいです。現在、JOC 選手強化本部では「人間力なくして、競技力向上なし!」というスローガンを掲げています。人間力が伴って初めてメダルが取れることを証明してくれたと、誇らしく思います。

東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 副委員長
(全日本空輸 取締役副社長執行役員 営業部門統括)

志岐 隆史

1955年長崎県生まれ。80年慶應義塾大学経済学部卒、全日本空輸入社。14年取締役執行役員、15年常務取締役執行役員、17年4月から現職。2012年4月経済同友会入会。16年度から幹事。東京オリンピック・パラリンピック委員会は14年度から委員、15年度から現職。

アスナビとは

現役トップアスリートと企業をマッチングする、JOCによる無料の職業支援制度。



平昌オリンピックでのアスナビ選手の結果

(経済同友会会員所属企業のアスナビ採用選手)

女子アイスホッケー

選手名	所属企業	1次リーグ	結果	順位決定戦	結果	総合順位
床 亜矢可(※1)	全日本空輸	日本vsスウェーデン	1-2	日本vsスウェーデン	2-1	6
久保 英恵(※2)	太陽生命保険	日本vsスイス	1-3	日本vsスイス	0-1	
小西 あかね	久慈設計	日本vs韓国	4-1			

※1：順位決定戦のスウェーデン戦で1点得点

※2：1次リーグのスイス戦、韓国戦で各1点得点

スケート・男子ショートトラック

選手名	所属企業	種目	順位	最終結果
横山 大希	トヨタ自動車	1500m	23	予選敗退
		5000mリレー	7	順位決定戦

スケート・女子ショートトラック

選手名	所属企業	種目	順位	最終結果
菊池 悠希	全日本空輸	3000mリレー	6	順位決定戦
		1500m	—	記録なし



床 亜矢可選手(背番号4)
=全日本空輸提供



小西 あかね選手(背番号30)
=久慈設計提供



久保 英恵選手(背番号21)
=太陽生命保険提供



菊池 悠希選手(中央)
=全日本空輸提供

——企業の所属選手も多く出場しました。企業とアスリートの関係については、どうお考えですか。

志岐 当社グループは、スポーツ全般に理解があり、アスナビでの採用数も多いです。現役中はアスリート活動を優先してもらい、日本代表選手に選ばれれば、会社として壮行会を開きます。身近な社員がスポーツの大イベントで活躍するのはうれしいものです。社内には、東京オリンピック・パラリンピックの代表候補選手の社員を応援するチーム「HELLO 2020」があり、リーダーはグループ各社にいます。選手の出る大会は必ず誰かが応援に行くようです。

荒木田 私が現役のところは、企業が福利厚生の一環でスポーツチームを持つのが主流で、選手も正規雇用がほとんどでした。社員の皆さんに応援していただき、仕事より練習中心の生活で、恵まれた環境でした。それが、バブル崩壊後、企業のスポーツ支援が減ってきました。オリンピックを目指すレベルにいながらアルバイトをしているアスリートも多かったんです。そんなアスリートたちを何とかしようとアスナビを始めました。

——アスナビが始まって8年ほどになります。

荒木田 2010年に経済同友会のご協力で、企業の皆さんにアスリートの現状に目を向けてもらおうと説明会を開きました。そのとき参加した中には、その場で採用が決まった

日本オリンピック協会 理事

荒木田 裕子 氏

1954年秋田県生まれ。バレーボール全日本女子で世界選手権(74年)、オリンピック(76年)、ワールドカップ(77年)の三冠を達成。欧州で選手、指導者として活躍後、87年に帰国、テレビ解説、講演、指導などに当たる。2017年から現職。JOCでは選手強化本部副本部長も務める。





アスリートもいました。これがきっかけで始まったのがアスナビです。これまでに139社209人（3月5日時点）が、アスナビ経由で社員が契約社員として採用されています。

志岐 アスナビが始まったところから、当社はより積極的にアスリートを採用するようになりました。もともと、いろいろなタイプの人材を採用していて、アスリートだから特別なのではありません。アスナビで面接するアスリートは

光るものがあり、自己アピールもしっかりできるようです。

荒木田 採用していただいた企業にヒアリングすると、同年齢の社員と比べて大人だとか、人間として魅力的だという声を聞きます。アスナビ採用をした企業が、その競技団体の大会スポンサーになってくれたこともあります。

志岐 トップクラスの選手は普段から頑張っており、努力を惜しまず鍛錬して、いい成績を取ろうとします。そうした態度は、会社で働くときでもベースとなるところです。

荒木田 アスリートは結果を出すため、強い意志を持ち、データを分析して高い目標に向けてきちんと行動します。チームスポーツなら、協調性やマネジメント力もあります。そういう部分は、ビジネスでも活かせると思います。

志岐 そういう人は、どこでも通用すると思います。

——就職を希望しているアスリートに望むことは？

志岐 採用時に基本的な研修はしますが、現役中はあくまで練習や試合が優先で、勤務は活動の合間、というサポートをしています。選手の間は徹底して頑張るという腹くくりは必要だと思います。引退したら、今度は会社の仕事を徹底する。仕事でも貢献してもらえると期待しています。

荒木田 アスリートは社会人としてやっていく能力を身に付けなければなりません。われわれは「自律・自立」できるアスリートを育てないといけないし、アスリートにもそれを目指してほしいです。アスリートが人間力を身に付けるために、各競技団体の強化指定選手やそのコーチを対象に、「JOC キャリアアカデミー」を開いています。アスナビ、アスナビNEXT*以外にも選手・コーチを対象とした研修を1年間に120本以上実施しています。講師は、人材育成の専門家やオリンピックなど、キャリア的な目標達成研修など、さまざまなメニューがあります。

4月からは「覚悟～メダリストの闘い」という題の新しい研修も始めます。自国開催やメダルのプレッシャーにどう対処するか、メダリストや指導者から、経験を毎月1回、(味の素ナショナルトレーニングセンターで)合宿しているアスリートに、本音で話してもらいます。チーム日本としての一体感の醸成にもつながると思っています。

アスナビ採用の冬季種目選手

(平昌オリンピック欠場、経済同友会の会員所属企業に採用された選手)

選手名	種目	採用企業
家根谷 依里(引退)	スキー・スノーボード・アルペン	大林組
平野 由佳	アイスホッケー	ローソン
岩本 懂子	スキー・フリースタイル・モーグル	ヤマノホールディングス
小黒 義明	スケート・ショートトラック	三菱電機
神野 慎之助	スキー・スノーボード・アルペン	トヨタ自動車
三澤 夏陽	スケート・ショートトラック	トヨタ自動車
本間 南	ボブスレー	ポピンズ

計7人

*引退したトップアスリートのセカンドキャリア支援



——アスリートの採用についての課題は何でしょう。

志岐 課題や不安はあまりないですね。アスナビで採用した人材は役に立つという確信があります。選手を採用したことをJOCから感謝されることもあるのですが、あくまで会社のためになると思ってのことで義務感ではないんです。

荒木田 企業とアスリートが「Win-Win」の関係を作っていく必要があります。企業にとっては、アスリートを採用することで、組織の士気の高揚や一体感が醸成できるというメリットがあります。われわれもアスリートが企業の役に立っていることを広報しないとイケないと考えます。アスリート採用実績のない企業は、どう彼ら、彼女らを活用するのか、どう企業の一体感を醸成していくのか、ノウハウが不足しています。その知識を共有して提供する場も、われわれが作っていかねばと思っています。先日でも20数社を集めた情報交換会を開き、アスリート採用の先輩企業から新しく採用した企業に情報を提供してもらいました。

企業には、アスリートが引退後に会社の仕事にかかわりやすいよう、難しいかもしれませんが、現役中もキャパシティーに応じて仕事を与えることをお願いしたいです。

志岐 アスリートの採用に悩んでいる会社もあるかもしれませんが、選手が現役の間はサポートし、引退後は社員として活用する会社も少なくありません。当社は今後も、純粋にアスリートを迎え入れ、将来は戦力にします。アスリートはスポーツで鍛えられているので、感じがいいですよ。

平昌オリンピックでの経済同友会会員所属企業の所属選手の結果

男子スキージャンプ

選手名	所属企業	種目	総合	順位
竹内 択	北野建設	ラージヒル	234.2	22
		団体	940.5	6

女子スキージャンプ

選手名	所属企業	種目	総合	順位
岩淵 香里	北野建設	ノーマルヒル	188.3	12

スキー・ノルディック複合

選手名	所属企業	種目	飛躍	順位	距離	順位	最終順位
渡部 善斗	北野建設	ノーマルヒル	114.3	8	26:16.2	12	12
		ラージヒル	110.6	20	26:07.9	20	20
		団体	455.3	3	48:18.6	4	4
渡部 暁斗	北野建設	ノーマルヒル	123.7	3	24:56.2	2	2
		ラージヒル	138.9	1	24:05.0	5	5
		団体	渡部善斗選手参照				

スケート・男子フィギュアスケート

選手名	所属企業	種目	得点	順位	合計	順位
羽生 結弦	全日本空輸	SP	111.68	1	317.85	1
		フリー	206.17	2		
宇野 昌磨	トヨタ自動車	SP	104.17	3	306.90	2
		フリー	202.73	3		
		団体男子SP	103.25	1		

※団体結果：5位(10カ国中)

スケート・女子ショートトラック

選手名	所属企業	種目	順位	最終結果
菊池 純礼	トヨタ自動車	500m	29	予選敗退
		1000m	20	予選敗退
		1500m	11	順位決定戦
伊藤 亜由子		3000mリレー	6	順位決定戦

スキー・女子スノーボード

選手名	所属企業	種目	順位
鬼塚 雅	星野リゾート	スロープスタイル	19
		ビッグエア	8

平昌パラリンピックに出場した選手

(経済同友会会員所属企業の所属選手)

男子アルペンスキー

選手名(所属企業)	種 目	最終順位
森井 大輝(トヨタ自動車)	滑降(座位)	2
	スーパー大回転(座位)	8
	大回転(座位)	途中棄権
	回転(座位)	4
	スーパー複合(座位)	途中棄権

アイスホッケー

選手名(所属企業)	1次リーグ	最終結果
安中 幹雄(日本たばこ産業)	韓国4-1日本	8
上原 大祐(日本電気)	米国10-0日本	
塩谷 吉寛(セイコーエプソン)	チェコ3-0日本	
柴 大明(日野自動車)	順位決定戦	
三澤 英司(日本製紙)	ノルウェー6-1日本	
吉川 守(中部電力)	スウェーデン5-1日本	

——パラアスリートの支援についてはいかがでしょう。

志岐 パラリンピックについては特に、応援に力を入れようとしています。中でも、ブラインドサッカーは当社が直接スポンサーになっているので、選手やコーチに会社に来てもらって、ブラインドサッカー講習会も開いています。

実際に見たり触れたりすると、面白いスポーツだということが分かり、パラ競技への心のハードルが下がりますね。

経済同友会としては、パラリンピックに軸足を置いて支援しています。東京大会では各会場を満員にするのが目標です。そのための階段は確実に登っていると思います。

荒木田 パラアスリートも、32人がアスナビを通じて就職が決まっています。パラアスリートの精神力はすごく強い。企業にとってもいろいろな意味で力になると思います。採用では、社内施設のバリアフリー化など障がい者対応の問題はありますが、それをクリアしている企業ならば、パラアスリートが頑張っている姿を見ることは、オリンピックのアスリート以上に、社員に勇気や感銘を与えてくれます。

——東京オリンピック・パラリンピック、さらにその後に向けて、未来像をお聞かせください。

志岐 産業界としては、ポスト東京オリンピック・パラリンピックについてもすでに考え始めています。IT化の流れで、日本はITインフラを整えていく状況にあります。例えば、空港のセキュリティに顔認証システムを導入するなど、新しいインフラが2020年までに作られるはずです。そうしたレガシー(遺産)を残すことが大事だと思います。

荒木田 指導者の人材を増やせる環境が必要です。教員の枠も減っていて、指導者は今、大変です。企業がサポートしてくれればうれしいですが、国からも何か支援が欲しいですね。最近のアスナビのおかげか、アスリートの存在が会社にとってメリットになると思っていただけるようになってきたと感じています。アスナビをもっと地方にも展開させたいし、「ワンカンパニー・ワンアスリート」だけでなく、「メニーカンパニーズ・ワンチーム」もあり得るので、今後はさらに広く情報を発信していきたいです。

アスナビ採用で東京2020大会を目指す夏季種目の選手

(経済同友会の会員所属企業の採用選手のみ、P09~13掲載の選手と4月1日入社の内定者を除く)

オリンピック

種 目	選手名(所属企業)
近代五種	黒須 成美(東海東京フィナンシャル・ホールディングス)
水泳・競泳	小林 奈央(あいおいニッセイ同和損害保険)
	渡邊 一輝(全日空商事)
	古賀 淳也(第一三共)
	山中 祥輝(ティラド)
	小松 巧、平井 彬嗣(郵船ロジスティクス)
体操・新体操	松原 梨恵(東海東京フィナンシャル・ホールディングス)
体操・トランポリン	山田 紗菜(ルミネ)
バレーボール・ビーチバレー	朝日 健太郎(フォーバル)
フェンシング	下大川 綾華(テクマトリックス)
	大石 葉菜、大石 利樹(山九)
ラグビーフットボール	鈴木 実沙紀、中丸 彩衣(NTTファシリティーズ)
	谷口 令子(凸版印刷)

計16人

パラリンピック

種 目	選手名(所属企業)
車いすバスケットボール	川原 凜(ローソン)
水泳	小野 智華子、宮崎 哲(あいおいニッセイ同和損害保険)
卓球	板井 淳記(旭化成)
テコンドー	伊藤 力(セールスフォース・ドットコム)
パワーリフティング	西崎 哲男(乃村工務社)
ボッチャ	高橋 和樹(フォーバル)

計7人